

インフルエンザの感染者数が再び増加しています

県が実施している感染症発生動向調査では、令和8年第5週（1/26～2/1）において、県内の1定点医療機関当たりのインフルエンザ患者報告数が4週連続で増加しています。

国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所のインフルエンザ（2026年第4週）疫学情報速報によると、国内の直近5週間（2025年第52週～2026年第4週）のインフルエンザウイルスの検出状況について、AH3亜型が154件（74%）、B型が53件（26%）との発表がありました。

全国的にB型インフルエンザウイルスの検出割合が増えており、保健環境センターや県内の医療機関の病原体検出情報においても、B型の検出が確認されておりますので、今後の感染拡大を予防するため、咳エチケットや換気、手洗いなどの基本的感染対策の徹底をお願いします。

○ 各保健所管内における1定点医療機関当たりのインフルエンザ患者報告数(人)

2026 年		保健所						宮城県（合計）
		仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼	仙台	
疫学週	第1週	6.00	5.70	7.80	7.80	3.75	4.31	5.31
	第2週	11.20	11.40	14.20	11.60	4.50	8.27	9.67
	第3週	15.60	16.50	7.80	14.80	2.75	11.38	12.05
	第4週	49.40	35.60	17.60	16.00	14.25	20.73	24.85
	第5週	90.40	66.40	48.00	30.80	50.25	37.88	49.02

～インフルエンザとは～

- 原因:**インフルエンザウイルスにより感染します。ヒトに感染するインフルエンザウイルスはA型、B型、C型の3つの型があり、このうち大きな流行の原因となるのはA型とB型です。
- 症状:**1～3日の潜伏期間の後、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などが突然現れ、その後、咳や咽頭痛、鼻水といった上気道症状などを呈します。また、子ども、高齢の方、免疫力の低下している方などは重症化して肺炎や脳炎になることがあります。
- 治療:**症状に応じた対症療法が中心ですが、抗インフルエンザ薬を使用する場合があります。
- 感染経路:**飛沫感染(咳やくしゃみで飛散した飛沫の中のウイルスにより感染します。)
接触感染(ウイルスが付着した手で口や鼻に触ることにより感染します。)
- 予防:**くしゃみや咳が出るときや人混みでは、マスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。室内ではこまめに換気しましょう。また、空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下します。加湿器などを使って、適切な湿度(50%から60%)を保つことも効果的です。外出後や食事前など、石けんによるこまめな手洗いやアルコール製剤での手指消毒を徹底しましょう。

○ 参考となるホームページ

国立健康危機管理研究機構「インフルエンザ」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/influenza/index.html>

国立健康危機管理研究機構「インフルエンザ疫学情報速報」

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/influenza/article.html>

宮城県結核・感染症情報センター

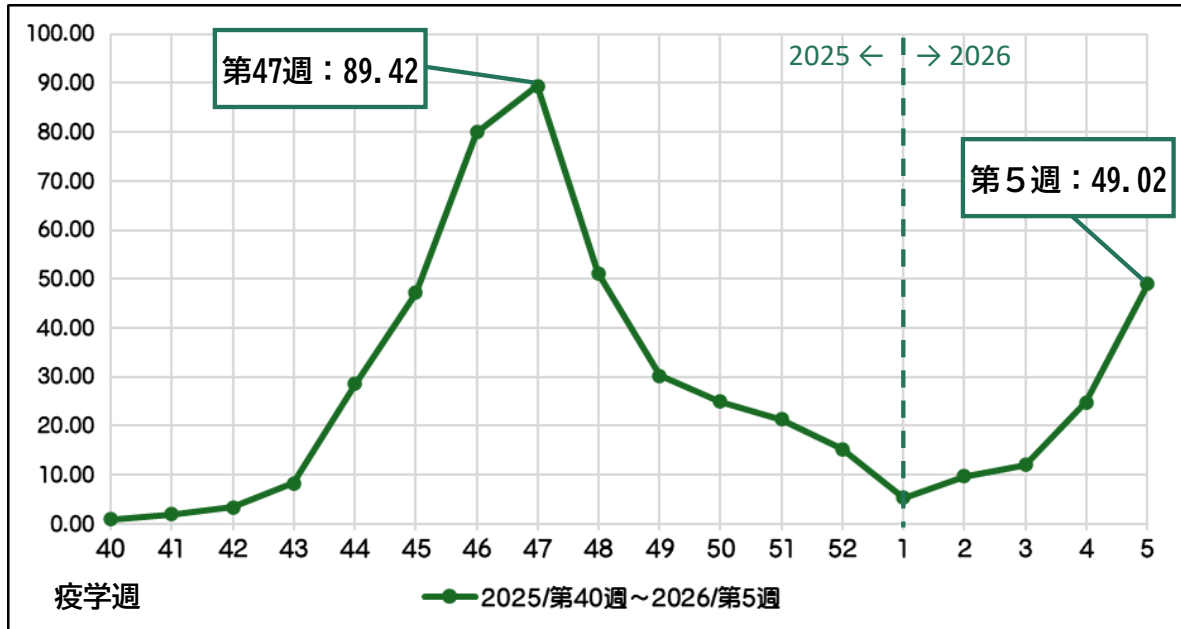
<https://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/kansen-center.html>

インフルエンザの感染者数が再び増加しています

宮城県の感染症発生動向調査では、令和8年第5週（1/26～2/1）において、県内の1 定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数が4週連続で増加しています。

全国的にB型インフルエンザウイルスの検出割合が増えており、保健環境センターや県内の医療機関の病原体検出情報においても、B型の検出が確認されておりますので、適切な感染対策を行い、感染拡大を予防しましょう。

宮城県での1 定点医療機関あたりの季節性インフルエンザ患者数（人）



インフルエンザとは

原因：インフルエンザウイルスにより感染します。ヒトに感染するインフルエンザウイルスはA型、B型、C型の3つの型があり、このうち大きな流行の原因となるのはA型とB型です。

流行期：例年、11月下旬から3月頃まで流行します。

通常、流行のピークは1月から2月頃で、4月から5月頃にかけて減少します。

症状：1～3日間の潜伏期の後、38℃以上の発熱、咳、のどの痛み、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。多くの場合、約1週間で軽快しますが、重症化すると、肺炎や脳症等を起こすことがあります。

基礎疾患（持病）のある方や乳幼児、高齢者は重症化のリスクが高くなります。

感染経路：飛沫感染（感染者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸って感染）

接触感染（感染者のくしゃみや鼻水等で汚染された物を他の人が手で触り、その手で鼻や口を触ることでウイルスが体内に入って感染）

予防のポイント



手洗い

外出後や食事前など、石けんによるこまめな手洗いやアルコール製剤による手指消毒を徹底しましょう。



換気、加湿

こまめに換気を行い、新鮮な空気と入れ替えることを心がけましょう。
空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下します。乾燥しやすい室内では加湿器などを使って、適切な湿度（50%から60%）を保つことも効果的です。



咳エチケット

マスクは不織布マスクを使用し、鼻と口の両方を確実に覆い、フィットするように調節しましょう。



予防接種

予防接種は、発症を抑える効果や重症化を予防する効果がありますので、接種を検討しましょう。